

旭川荘創設者・川崎祐宣さん

医療、福祉、師の思い

社会福祉法人旭川荘（岡山市北区祇園）の名誉理事長、江草安彦さんが3月13日に88歳で死去する直前に監修した書籍「果てしなく続く医療福祉の道〜川崎祐宣の思想に学ぶ」（日本医療企画）が出版された。江草さんが「生涯の師」と仰いだ旭川荘創設者・川崎さん（1904〜96年）の医療、福祉への思いがこぼれている。（小若菜美）



江草安彦さん



川崎祐宣さん

「医療」「福祉」「教育」「医療福祉」のとき、「現状維持は退歩」に別、岡山で医師であるなど述べたを志した川崎さんの歩み、川崎さんの言葉をふんみや旭川荘、学校法人だんに盛り込んだ。川崎学園（倉敷市）の川崎さんの生涯から創設の経緯、理念を解き見えてくるリーダーの説。医師や看護師の生きた証、経営者の才覚、

「仕事を生き方に」

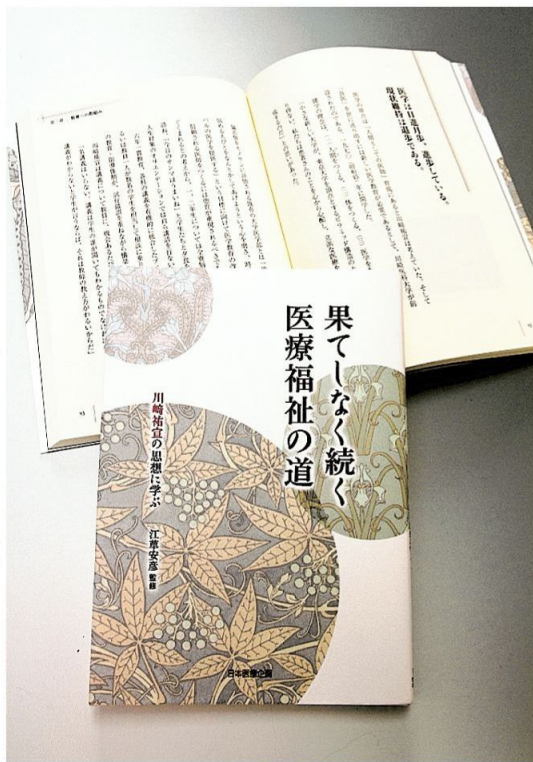
歩みや「仕事を生き方に」
理念解説

出会いの大切さなどを紹介しており、江草さんは「仕事をただ職業とするのではなく、自分の生き方として、特に若い医師や学生、福祉に携わる職員に読んでもらいた

来年の旭川荘創設60周年を前に、江草さんは「医療福祉」の名前を全国で初めて冠した4年制大学・川崎医療福祉大（倉敷市松島）を開学し、初代学長を務めた。

85年に2代目理事長に就任する一方、91年には「医療福祉」の名前を全国で初めて冠した4年制大学・川崎医療福祉大（倉敷市松島）を開学し、初代学長を務めた。

岡山、倉敷市の書店などで販売している。江草さんは岡山大医学部小児科助手を経て1956年、旭川荘の創設に初代理事長の川崎さんとともに参加。



江草さんが監修した「果てしなく続く医療福祉の道〜川崎祐宣の思想に学ぶ」